

I

向精神薬の概念

1. 向精神薬とは

向精神薬 psychotropica は、精神に作用する薬物の総称である。WHOは「その物質の生体に対する主要な作用として、精神機能、行動あるいは経験に影響を与える薬物」と定義している。本書では図1に示したように、中枢神経系に対する作用が一次的で、精神機能や行動に変化をもたらすものを向精神薬とし、そのうち主として精神障害の治療に用いられる薬物を「精神治療薬」とした。

2. 向精神薬の分類

向精神薬の定義によりその分類は異なるが、わが国での治療の現況を勘案し、図1のように分類した。

a. 抗精神病薬 antipsychotics, neuroleptica

抗幻覚妄想作用、鎮静作用、賦活作用などがあり、薬理的にはドパミン受容体のうちD₂受容体に対する拮抗作用が共通してみられる。副作用は錐体外路症状の頻度が高い。新しい抗精神病薬であるセロトニン-ドパミン拮抗薬（SDA）は、陰性症状にも有効で錐体外路症状が少ない。

b. 抗うつ薬 antidepressant

抗うつ気分を昂め内因性うつ病またはさまざまなタイプの抑うつ

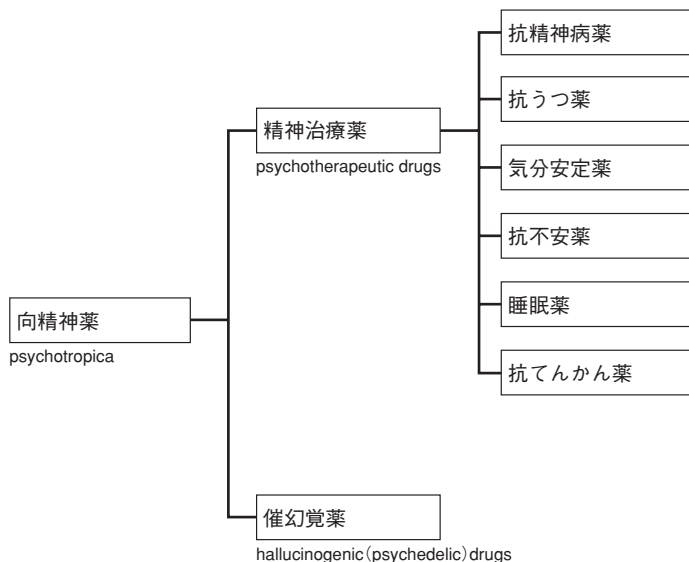


図1 臨床的見地からの向精神薬の分類

性気分変調を改善させる作用をもつ薬物全体を抗うつ薬という。薬理的にはモノアミン再取り込み阻害や受容体のダウンレギュレーションなどの関与が推定されているが、完全には解明されていない。抗コリン性の副作用が多い。新しい抗うつ薬、選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）やセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）は抗コリン性の副作用は少ないが嘔気など消化器の障害がみられる。

c. 気分安定薬 mood stabilizer

炭酸リチウムをはじめ双極性障害の治療効果と予防効果を併せもつ薬剤を気分安定薬という。カルバマゼピン，バルプロ酸ナトリウム

ムも気分安定薬としても用いられる。

d. 抗不安薬 antianxiety drug, anxiolytics

不安緊張などを眠気や意識状態の低下を起こさぬ量で緩和，改善させる薬物の総称である。セロトニン作動性抗不安薬タンドスピロンは依存を惹起しない。

e. 睡眠薬 hypnotics

睡眠を誘発し持続させる薬剤の総称である。ベンゾジアゼピン受容体作動薬が主として用いられる。

f. 抗てんかん薬 antiepileptic drug

てんかん発作を抑制する効果のある薬をいう。血中濃度をモニターしながら用いる。

[上島国利]